

JAISS Newsletter No.37

日 本 国 際 秘 書 学 会

Japan Association for International Secretarial Studies

JAISS日本国際秘書学会発行 2024.2.29

会長 ご挨拶

会長 大塚 映



会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと拝察いたします。

約3年に渡って猛威を振るったコロナ禍も落ち着いて参りましたが、今年はインフルエンザが早い時期から流行している中で世界的に見ましても異常気象や紛争が絶え間なく続き、国際情勢の様々な面でSDGs取組みの重要性を痛感する昨今でございます。

一昨年の10月にJAISS新体制が発足して以来1年程が経ち、先般の10月末には2023年度総会、第32回全国大会を無事盛会に終えることができました。これもひとえに会員皆様のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

この1年は本学会の活性化とさらなる発展に向け、様々な改革を推し進めて参りました。思い起こしますと、本当にあっという間に過ぎた1年でした。前体制から引き続きご担当くださっている理事や新役員の方々と共に様々な企画を立ち上げ、会員の皆様にもご協力をいただきながら進めて来ることができました。改めて感謝申し上げます。

改革には、会則・内規の改定をはじめ、学会活動により柔軟にご参加いただけるよう休会・復会制度を新設、投稿原稿を執筆していただだけやすいよう研究年報規定を分かりやすく改定し、また、研究助成制度や研究年報・全国大会発表のそれぞれの部における学会賞・奨励賞の新設等、取り組んで参りました。

会員の皆様には果敢に研究助成へのお申込や研究年報へのご投稿、全国大会でのご発表をいただき、本学会としてもうれしい限りでございます。先日には第32回全国大会発表の部での奨励賞が決定し、今後の会員皆様の研究活力にも繋がっていくことを願うばかりでございます。ぜひ日頃の研究の成果を様々な形で挑戦していただければ幸いです。

また、本学会のこれまでの活動や新設制度等の再検討のために、会員の皆様へのアンケート調査も実施させていただき、概ね好評という大変ありがたい結果をいただきました。ご意見やご要望をいただきました点につきましては、今後の学会運営に活かして参りたいと存じます。お忙しい中、ご回答くださいました皆様、ありがとうございました。

本学会が掲げております「グローバル社会に適応できる人材教育・職能研究」の活動がビジネスの在り方の研究やビジネスパーソンの人材育成等の活性化に繋がり、会員皆様のさらなるご活躍に発展していけるよう、今後も尽力して参る所存でございます。

今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2023～2024 年度 役員

(2024 年 2 月 29 日現在)

【会長】

大塚 映 (BSCM 総合研究所)

【副会長】

四之宮 玲子 (情報解析総合研究所)

藤村 やよい (日本秘書協会)

【常任理事】

串田 敏美 (産業能率大学)

今泉 景子 (名古屋外国語大学)

【理事】

周藤 亜矢子 (常磐短期大学)

上田 知美 (四天王寺大学短期大学部)

高池 宣彦 (常磐短期大学)

辻 京子 (茨城女子短期大学)

田口 智子 (北翔大学短期大学部)

【監事】

箕浦 恵美子 (名古屋女子大学短期大学部)

森田 篤司 (大阪国際大学短期大学部)

【事務局】

高池 宣彦 (常磐短期大学)

第32回全国大会・通常総会 オンライン開催

2023年10月29日(日)、大会テーマを「組織とDXーDX時代に付加価値を生む働き方とビジネススキルー」とし、昨年に続きZoomによるオンライン形式で開催された。

大会委員長 ご挨拶

第32回大会委員長

周藤 亜矢子 (常磐短期大学)

日本国際秘書学会第32回全国大会は、2023年10月29日(日)、Zoomによるオンライン形式で開催されました。

大会統一テーマは、「組織とDXーDX時代に付加価値を生む働き方とビジネススキルー」とし、コロナ禍以降、スピード感を持って進んでいる社会のデジタル変革に焦点を当て、ビジネスパーソンの市場と求められる能力がどのように変化しているかということについて、教育現場と企業組織の枠を超えての人材育成について検討し議論する場となりました。

基調講演では、株式会社イオンボディ代表取締役社長の藤田紀久子氏に「組織とDXー経営課題の解決を加速するDXー」と題してご講演いただきました。自社で行われている事例を元に、人材がデジタルを使って経済活動の課題をどう解決していくかなどについてお話いただきました。講演後の質疑応答では、機知に富んだディスカッションがなされました。その後3名の方の研究発表が行われました。

本大会では、21名の参加者にお集まりいただきました。ご参加の皆様、誠にありがとうございました。また、大会委員の皆様には、円滑な大会運営にご協力いただき、まことにありがとうございました。心より感謝申し上げます。

■プログラム

研究大会プログラム

研究発表Ⅰ 「日本国際秘書学会は何を研究してきたのかー研究年報の計量テキスト分析ー」

常磐短期大学 高池 宣彦

座長：道添 栄一

研究発表Ⅱ 「地方創生を推進する人材創出に関する一考察ー高知新港高台開発事業から若年者雇用に期待することー」

大阪樟蔭女子大学 高松 直紀

座長：笹瀬 佐代子

研究発表Ⅲ 「大学生の電子メール利用の実態に見られる問題点ービジネス実務教育における課題ー」

近畿大学九州短期大学 北岡 昭子

座長：藤村 やよい

基調講演 「組織とDXー経営課題の解決を加速するDXー」

藤田 紀久子 氏 (株式会社イオンボディ 代表取締役社長)

講師紹介：辻 京子

ディスカッション 基調講演者 藤田 紀久子 氏との質疑応答

コーディネーター：四之宮 玲子

■第32回 全国大会 大会委員

委員長 周藤 亜矢子 (常磐短期大学)

副委員長 四之宮 玲子 (元日本大学)

委員 大塚 映 (BSCM 総合研究所)

栗栖 美帆 (大阪国際大学短期大学部)

笹瀬 佐代子 (常磐短期大学)

高池 宣彦 (常磐短期大学)

高松 直紀 (大阪樟蔭女子大学)

森田 篤司 (大阪国際大学短期大学部)

(五十音順)

大会テーマ

「組織と DX—DX 時代に付加価値を生む働き方とビジネススキル—」

基調講演

「組織と DX—経営課題の解決を加速する DX—」

藤田 紀久子氏（株式会社イオンボディ代表取締役社長）

私は社会人のキャリアを日本企業の役員秘書室からスタートしておりますが、2013年から5年間と2022年から現在までイオングループの新業態の事業会社2社の社長を務めるなど組織のリーダーを務める機会に恵まれました。ちょうどデジタル化、DXが注目される時代に、リーダーとしてどのように考え、それらを取り入れてきたかについてお話させていただきたいと思います。

私は男女雇用機会均等法施行後に就職活動をした最初の世代にあたりますが、女性が活躍してきた実績のある流通業に魅力を感じて流通大手に入社、役員秘書室に配属されました。2年半後には新しくメインバンクから着任した役員付となり、国際業務本部を経て、当時グループ傘下であったインターコンチネンタルホテルズ&リゾートに出向することになりました。両部署とも新設部署であったため、外国人を含めてグループ内外から多様な人が集まってきており、ダイバーシティのサンプルのような部署で働くことを経験しました。多様なバックグラウンドや常識をもつメンバーが新設部署で働けば、摩擦や課題がたくさん発生します。その中でどうしたら秘書としての任務を全うできるかについて、真剣に悩み、考えた時期でもありました。この時代はワードプロセッサがようやく職場に浸透し始めた頃で、やがて、並行して電子メールが導入されはじめるとともに業務の進め方は著しく変化していきました。国内外を問わず、同様の変化が起きていたと記憶しています。

時を経て2013年、グループの新業態、ラグジュアリーコスメブランドのセレクトショップの社長に抜擢されるという大きな転機がありました。創業間もないこの会社を事業会社として一人前にするために邁進しておりました。当時の親会社主催の会議では「デジタル化」がキーワードであり、事業進捗を報告するシートには「デジタル化」という欄がありましたが、まずは、従業員教育の領域でのデジタル化を計画しました。当時いくつものブランドを扱うセレクトショップでは、商品教育のための出張費が大きな負担となっていました。経費を抑えて十分な教育をする方法はないかという課題の答えとして考えたことが、当時普及しつつあったiPadの通信機能を使ったテレビ会議でした。ブランド企業の教育担当者の協力を得て、集合教育では2時間ほどの内容を、30分から長くても1時間以内にコンパクト版にして、全店のスタッフが店舗のバックヤードで無理なく教育を受けられるようにしました。出張を伴う教育では主に店長が参加していましたが、通信では二番手や三番手のスタッフが参加できるようになり、次世代育成にも役立つようになり、画面上の互いの存在を意識し合うことが全社的なスキル向上を加速させました。出張経費を最小限にしなが、教育の内容は充実させるという、2つの相反する課題を同時に解決するためのツールこそが、自社のデジタル化だと感じた事例でした。この取り組みはグループ内のアワードで賞をいただくことにもなりました。

2020年のコロナ禍にホールディング組織の中で、ダイバーシティ推進室長に着任しました。ダイバーシティ推進室主催の研修もすべてオンライン化を実現しました。研修内容をオンラインでの最適化を検討した上で実施してみると、これまでよりも圧倒的に多くの参加者を得ることができました。全国各地に店舗や拠点が広がる当グループは、研修のオンライン化で大きなメリットを得ることに改めて気づかされました。

2022年より再度経営者となり、事業会社の言わば再建を担当しております。自社の事業性の確立に不可欠な部分については、先行投資として積極的にDXを選択するという考え方もあり得るのではないかと考えております。例えば、スタッフ教育については、動画コンテンツを各々がオンデマンドで視聴、自己学習可能な仕組みの構築によって、大きく前進できそうです。研修動画はZoomの録画機能を使えば手軽に低コストで、コンテンツ作成が可能です。さらには取引先メーカーの社長や商品開発者に依頼して、商品開発への想いやストーリーを直接お話いただくことで、対面の研修にも劣らぬ熱意を感じることができ、スタッフの理解が深まりました。

本日ご紹介させていただいた事例は小さなDXではありますが、スタッフが商品価値を伝え、お買物体験の楽しさを創出するという具体的な成果に繋がり、今後の事業の成長を考える上で大切と考えております。経営者としてDXの可能性を考えると、DXの活用が経営課題を解決し、事業計画の加速に繋げられるよう、適切に設計できるかということ、それらを着想し続けられるかということがますます必要になってくるのではないかと感じております。

藤田 紀久子氏 ご略歴：

1987年、流通大手に入社。役員秘書室、国際業務本部を経て、インターコンチネンタルホテルズ&リゾートに出向、国内外の開業プロジェクト等に携わる。1996年、英国ブランド「ザ・ボディショップ」を展開する株式会社イオンフォレスト（当時イオングループ）に社長秘書として入社。同社CSR、人事総務、広報、教育等の責任者を務める。2013年ラグジュアリーコスメのセレクトショップ、コスメム株式会社（イオングループ）代表取締役社長。2018年、イオン株式会社コーポレート・コミュニケーション部長。2020年、同社ダイバーシティ推進室長。2022年、美と健康をテーマにしたセレクトショップを展開する株式会社イオンボディ代表取締役社長。

基調講演における質疑応答

コーディネーター 四之宮 玲子

基調講演者藤田氏と参加者との活発な質疑応答が行われた。
(詳細は「研究年報31号」に掲載)

.....

研究発表 I

**「日本国際秘書学会は何を研究してきたのか
—研究年報の計量テキスト分析—**

高池 宣彦 (常磐短期大学)

本研究は、日本国際秘書学会における 30 年間の研究動向を明らかにすることを目的とする。1994 年の創刊号から 2023 年までの研究年報に掲載された論文タイトルと見出しに対して計量テキスト分析を適用し、頻出語と時系列に沿った研究テーマの変遷を検証した。この分析により、学会の学術的な役割および影響の変化が深く理解されることを目指す。従来の研究には見られない 30 年間の包括的な分析は、本学会における研究トレンドの理解と評価に新たな視点を提供する。さらに、学会の過去の貢献と将来の研究方向性に関する貴重な知見を提供し、本学会の研究の発展に寄与する意図がある。学問領域の特性と時代に即した研究の変化を追跡し、学会の今後の指標となる知見を提示することを試みた。

研究発表 II

**「地方創生を推進する人材創出に関する一考察
—高知新港高台開発事業から若年者雇用に期待すること—**

高松 直紀 (大阪樟蔭女子大学)

本研究では、地方創生の経緯と現状をまとめるとともに、6 次産業化から地方創生を目指す高知新港高台開発事業 (以下、本事業と示す) に焦点を当て、高知県 (以下、県と示す) の若年者雇用にに関する課題を整理し、県の若年者雇用に及ぼす影響を考察した。

若年者雇用の課題は、若年者ほど完全失業率が高く、また、大学新卒者の県外就職率も高いことが明らかになった。さらに、市民意識として若年者の雇用促進につながる業種と県の産業構成比に乖離が生じていた。

本事業が県の若年者雇用に及ぼす影響として、小規模であるが既に若年者雇用を実現しており、その採用経緯には近年、地方創生で注目される関係人口からの移住・定住が関与していた。また、本事業は、6 次産業化の過程で若年者が希望する業種の雇用創出が期待でき、若年者の完全失業率の改善に影響を与える可能性があるとともに、クリエイティブ人材等の関係人口の創出にも寄与する可能性が示唆された。

研究発表 III

**「大学生の電子メール利用の実態に見られる問題点
ービジネス実務教育における課題ー」**

北岡 昭子 (近畿大学九州短期大学)

本研究は、学生が書く電子メールにはメールマナーから大きく逸脱している特徴がある点に着目し、電子メールの作法に関してどのような問題点があるのか、なぜそのような特徴になるのかを考察し、ビジネス実務教育の一つとしての電子メールリテラシーに求められることを見出したものである。

調査した学生たちの年代では、普段のコミュニケーションツールはSNSが主であり、電子メールと書き方の区別をしなければならないという意識がないまま使っていることが、メールマナーから逸脱する大きな要因であると考えた。実際のビジネス現場では、仕事上の情報伝達手段として電子メールが最も多く使われていることを踏まえ、学生には基本的なメールマナーの教育のみならず、「相手への礼儀を意識した仕事」の仕方を電子メールのやり取りにおいても実践できるようにビジネス実務教育が求められる。

JAISS 日本国際秘書学会 2023 (令和5) 年度 通常総会

1. 日 時： 2023 (令和5) 年10月29日 (日) 11:00~12:00
2. 方 法： Zoom オンライン開催
3. 成立要件：出席者 17名、委任状 16名 計33名 (会則 第20条5項)
4. 議 長： 会長 大塚 映 (会則 第20条6項)
5. 議 案：

□ 報告事項

- (1) 会員数の動向について
- (2) 2022 (令和4) 年度 事業報告
- (3) 2022 (令和4) 年度 収支決算報告
 - 1) 2022 (令和4) 年度 各収支決算 報告
 - 2) 2022 (令和4) 年度 収支決算 監査報告
- (4) 新理事ご就任の報告
- (5) 会員アンケートの結果報告
- (6) 2023 年度 研究助成 採択結果
- (7) 日本国際秘書学会 研究年報第30号 奨励賞の発表
- (8) 研究年報 規定改定・研究年報 第31号の発刊日程の説明

□ 審議事項

- (1) 2023 (令和5) 年度 事業計画ならびに収支予算案
 - 1) 2023 (令和5) 年度 事業計画案について
 - 2) 2023 (令和5) 年度 収支予算案について
- (2) 会則・内規の変更について
 - 1) 会則：改定案
 - 2) 内規：改定案
 - 3) 休会・復会 規定

1. 報告事項

- (1) 会員数の動向について (副会長より)
 - 1) 会員数

会員の種別	2022 年度総会時	2023 年度総会直前
正会員	51 名	40 名
アソシエイト会員	4 名	6 名
学生会員	1 名	0 名
賛助会員	0 名	0 名
名誉会員	0 名	0 名
会員総数	56 名	46 名

2) 入退会状況 (2022 年度総会以降～2023 年度総会直前)

- ・入会者 : 0 名
- ・退会者 : 正会員 10 名
伊藤 理絵、木許 智佳子、進藤 尚子、本郷 由布子、吉村 智子、鷲巢 貞江 (2021 年度をもって)
飯塚 淳、岸本 隆子、川口 直子、三次 亜希子 (2022 年度をもって)
- ・資格喪失者 : 0 名
- ・物故者 : 0 名

(2) 2022 (令和 4) 年度 事業報告 (副会長より)

1) 報告の事業年度

2022 (令和 4) 年 9 月 1 日～2023 (令和 5) 年 8 月 31 日

2) 報告の事業概要

① JAISS 通常総会 開催

- ・日時 : 2022 (令和 4) 年 10 月 9 日 (日) 11:00～12:00
- ・方法 : オンライン開催

② JAISS 第 31 回全国大会 開催 (東・西支部 合同担当)

- ・日時 : 2022 (令和 4) 年 10 月 9 日 (日) 13:00～17:00
- ・方法 : オンライン開催
- ・テーマ : サステナブルな社会実現のための取り組みと人材育成

大会委員長 藤村 やよい

③ ニュースレターNo. 36 2023 (令和 5) 年 2 月 28 日 (火) 発行

広報担当理事 串田 敏美

④ 研究年報 第 30 号 2023 (令和 5) 年 8 月 1 日 (火) 発行

- ・研究レポート 1 編、教育レポート 1 編、海外レポート 1 編
- ・第 30 回全国大会報告、基調講演

編集委員長 高池 宣彦

編集委員 高松 直紀、辻 京子

⑤ 支部活動報告 (各支部長より)

□ 東日本支部 : 支部長 周藤 亜矢子

- ・支部会 サイバー会議 多数開催
- ・支部研究会

日時 : 2023 (令和 5) 年 8 月 19 日 (土)

方法 : Zoom によるオンライン開催

基調講演 : Yamaha Labo 代表 山葉 隆久 氏

□ 西日本支部 : 支部長 児島 尚子

- ・支部会 サイバー会議 多数開催
- ・支部研究会

日時 : 2023 (令和 5) 年 8 月 19 日 (土)

場所 : 四天王寺大学 あべのハルカス サテライトキャンパス

授業事例報告 1 件、研究発表 2 件 ラウンドテーブル

⑥ 役員会 (副会長より)

- ・理事会 :サイバー会議 多数開催
- ・理事連絡会:サイバー会議 多数開催

⑦ 委員会 (副会長より)

- ・第31回全国大会委員会:サイバー会議 多数開催 (東・西支部 合同担当)
- ・第32回全国大会委員会:サイバー会議 多数開催 (東・西支部 合同担当)
- ・研究年報編集委員会 :サイバー会議 多数開催
- ・学会賞・奨励賞選考委員会:サイバー会議 多数開催

(3) 2022 (令和4) 年度 収支決算報告および監査報告 (会計担当理事・監査より)

- 1) 「一般会計」収支決算・監査報告 (資料1)
- 2) 「東日本支部」収支決算・監査報告 (資料2)
- 3) 「西日本支部」収支決算・監査報告 (資料3)
- 4) 「第31回全国大会」収支決算・監査報告 (資料4)

(4) 新理事ご就任の報告 (会長より)

(5) 会員アンケートの結果報告 (会長より)

(6) 2023 年度 研究助成 採択結果 (会長より)

(7) 日本国際秘書学会 研究年報第30号 奨励賞の発表 (選考委員長より)

(8) 研究年報 規定改定・研究年報 第31号の発刊日程の説明 (別紙1) (編集委員長より)

2. 審議事項

(1) 2023 (令和5) 年度 事業計画について (副会長より)

1) 報告の事業年度

2023 (令和5) 年9月1日~2024 (令和6) 年8月31日

2) 事業概要

① JAISS 2023 年度通常総会 2023 (令和5) 年10月29日開催

② JAISS 第32回全国大会 2023 (令和5) 年10月29日開催

③ ニュースレターNo.37 2024 (令和6) 年2月29日 発行予定

④ 研究年報 第31号 2024 (令和6) 年4月1日 発行予定

⑤ 支部活動

・東日本支部 支部会:サイバー会議 多数開催予定

支部研究会:1回ほど開催予定

・西日本支部 支部会:サイバー会議 多数開催予定

支部研究会: :1回ほど開催予定

⑥ 役員会

・理事会 サイバー会議 多数開催予定

・理事連絡会 サイバー会議 多数開催予定

・常任理事会 サイバー会議 多数開催予定

⑦ 委員会

- ・ 第 32 回全国大会委員会：サイバー会議 多数開催予定
- ・ 第 33 回全国大会委員会：サイバー会議 多数開催予定
- ・ 研究年報編集委員会：サイバー会議 多数開催予定
- ・ 学会賞・奨励賞選考委員会：サイバー会議 多数開催予定

(2) 2023 (令和 5) 年度 収支予算案について (資料 5) (会計担当理事より)

(3) 会則・内規の変更について (会長より)

- 1) 会則：改定案 (別紙 2)
- 2) 内規：改定案 (別紙 3)
- 3) 休会・復会 内規 (別紙 4)

JAISS 日本国際秘書学会

2023 年度 総会資料

日本国際秘書学会
2022 (令和 4) 年度 一般会計 収支決算書
(2022 年 9 月 1 日～2023 年 8 月 31 日)

資料1

(単位：円)

収入		支出	
前年度繰越金	2,195,386	全国大会委託金	150,000
全国大会準備金	150,000	研究年報発行費	66,210
全国大会収益	17,220	印刷費	0
東日本支部研究会収益	0	通信費	33,159
西日本支部研究会収益	0	広報活動費	48,048
会員年会費 (2022 年度分)	373,000	消耗品費	5,210
" (2021 年度分)	100,000	会議会合費	5,845
" (2020 年度分)	52,000	旅費交通費	0
" (2019 年度分)	40,000	支部活動費	25,130
雑収入	30,167	雑費	9,000
預貯金利息	20	振込手数料	4,345
		管理調整費	104,845
		租税公課	0
		分科会活動費	0
		特別活動費	0
		次年度繰越金	2,506,001
合計	2,957,793	合計	2,957,793

2023 年 9 月 8 日

会計担当理事 大塚 映



監査報告

日本国際秘書学会の 2022 (令和 4) 年度の一般会計における関係帳票および会計報告を監査した結果、上記の収支決算書が正確であることを認めます。

2023 年 9 月 26 日

監事 箕浦 恵美子



監事 森田 篤司



日本国際秘書学会
2022（令和4）年度 東日本支部 収支報告書
（2022年9月1日～2023年8月31日）

(単位：円)

収入		支出	
支部運営費	30,000	会議費（会場費・飲食代）	0
研究会参加費	0	講師料	20,000
預貯金利息	0	通信費	0
		交通費（講師）	0
		消耗品費	0
		謝礼品（菓子代）	0
		振込手数料	385
		預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	9,615
合計	30,000	合計	30,000

2023年8月31日

東日本支部長 周藤 亜矢子



監査報告

日本国際秘書学会 2022（令和4）年度 特別会計（東日本支部収支会計）の関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2023年9月26日

監事 箕浦 恵美子



監事 森田 篤司



資料3

日本国際秘書学会
2022（令和4）年度 西日本支部 収支報告書
（2022年9月1日～2023年8月31日）

（単位：円）

収入		支出	
支部運営費	30,000	会議費（会場費・飲食代）	0
研究会参加費	0	講師料	0
預貯金利息	0	通信費	0
		交通費（講師）	0
		消耗品費	0
		謝礼品（菓子代など）	5,130
		振込手数料	0
		預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	24,870
合計	30,000	合計	30,000

2023年8月31日

西日本支部長 兒島 尚子



監査報告

日本国際秘書学会 2022（令和4）年度 特別会計（西日本支部収支会計）の関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2023年9月26日

監事 箕浦 恵美子



監事 森田 篤司



資料4

日本国際秘書学会
2022年度 第31回 全国大会
(2022年10月9日開催)

収支報告書

(単位：円)

収入の部		支出の部	
仮払金	150,000	仮払金返金	150,000
全国大会参加費 (会員26名×2,000円) (ビジター7名×1,000円)	59,000	会議費	2,700
		講師料	30,000
		印刷費	0
		交通費	0
		通信費	2,559
		消耗品費	0
		振込手数料	210
		雑費	6,311
合計	209,000	合計	191,780

収入合計	209,000
支出合計	191,780
差し引き金額	17,220

第31回全国大会収入	¥17,220
------------	---------

2022年11月27日

会計担当 三枝 重紀子 (印)

監査報告

日本国際秘書学会 2022 (令和4) 年度 特別会計 (第31回全国大会収支会計) の関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2023年9月26日

監事 箕浦 恵美子 (印)

監事 森田 篤司 (印)

日本国際秘書学会

2023（令和5）年度 一般会計 収支予算（案）
（2023年9月1日～2024年8月31日）

（単位：円）

収入			支出		
科目	2022年実績	2023年予算	科目	2022年実績	2023年予算
前年度繰越金	2,195,386	2,506,001	全国大会委託費	150,000	150,000
全国大会準備金	150,000	150,000	研究年報発行費	66,210	70,000
全国大会収益	17,220	0	研究助成費		0
東日本支部研究会収益	0	0	学会表彰費		50,000
西日本支部研究会収益	0	0	印刷費	0	0
会員年会費			通信費	33,159	20,000
2023年度		344,000	広報活動費	48,048	40,000
(2022年度)	373,000	8,000	消耗品費	5,210	4,000
(2021年度)	100,000	0	会議会合費	5,845	25,000
(2020年度)	52,000	0	旅費交通費	0	20,000
(2019年度)	40,000	0	支部活動費	25,130	60,000
雑収入	30,167	0	雑費	9,000	5,000
預貯金利息	20	20	振込手数料	4,345	5,000
			管理調整費	104,845	0
			租税公課	0	0
			分科会活動費	0	0
			特別活動費	0	0
			次年度繰越金 ※1	2,506,001	2,559,021
合計	2,957,793	3,008,021	合計	2,957,793	3,008,021

◆2023年度予算の補足説明

※1 「ゆうちょダイレクト：残額 1,063,000 円（2022.10.21）、残額 56,000 円（2023.9.4）」を
「三井住友銀行口座」へ移した後、解約。

現在、「三井住友銀行口座：通帳のみ」の一括管理とし、次年度繰越金の額。

支部だより

◆活動報告

【東日本支部】 東日本支部長 周藤 亜矢子

会員の皆様

東日本支部では、2023年8月にYamaha Labo 代表 山葉 隆久様をお招きし「ビジネススキルと働き方：40年間の会社員経験を振り返って」を、ご著書『誰とでもどこでも働ける 最強の仕事術』を元に組織・生産性・人材育成などの視点からご講演いただきました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。アンケートの結果から、大変ご満足いただけたようでした。

今年度も昨年度に引き続き、会員の皆様の意義ある活動の一助となれますよう、企画運営を検討いたします。ぜひ学びたいテーマや参加したい企画、講演者のリクエストなどがございましたらご提案ください。また一緒に企画運営していただける方もぜひお申し出ください。どうぞよろしく願いいたします。

【西日本支部】 前西日本支部長 兒島 尚子

会員の皆様

西日本支部では、2023年8月にあべのハルカス23階 四天王寺大学サテライトキャンパスにて開催いたしました。授業事例報告1件、研究発表2件の後、ラウンドテーブル形式で、「アフターコロナの授業の工夫・プレゼンテーション授業等の進め方について」参加者で意見を出し合い、情報交換を行いました。さらに平田 祐子氏（日本国際秘書学会 前学会長）・福井 愛美氏（日本国際秘書学会 前理事）・東野 國子氏（日本国際秘書学会 前常任理事）の3名に、理事会運営を振り返って、試みたこと、ご苦労なされたことについて伺い、その後、参加者でJAISSの今後について自由に話し合い、有意義な研究会となりました。

◆活動計画

【東日本支部】 東日本支部長 周藤 亜矢子

【西日本支部】 西日本支部長 上田 知美

・2023年度 支部研究会 東日本・西日本支部合同開催予定（7月頃オンライン実施）

事務局からのお知らせ

第33回全国大会 予告

開催日時：2024年 秋頃（決定次第、HPにてお知らせします）

開催会場：未定

◎JAISS 研究年報の既刊号を販売しています。

購入希望の方は本部事務局までご連絡ください。（1部1,000円）

◎会員情報の変更届について

ご住所、所属機関、連絡先等のご変更が生じましたら本部事務局までメールでご連絡ください。

本部事務局 E-mail:jaissjimukyoku@gmail.com

◎新入会員をご推薦ください。

入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.jaiss.sakura.ne.jp/nyukai.htm>

2022年より、会員1名の推薦者で申し込むことができるようになりました。

日本国際秘書学会 発行

本部事務局

常磐短期大学 キャリア教養学科 高池研究室内

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1

Tel: 029-232-2553(直通)

E-mail: jaissjimukyoku@gmail.com

ホームページ:<http://www.jaiss.sakura.ne.jp/index.htm>